

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：27016

「学ぶ力」	
実態	成果
課題	<p>◇全国学力・学習状況調査の結果から、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりする」ことや「休みの日や授業時間以外に勉強する」ことに消極的な児童が多いという実態が捉えられた。生きて働く「学ぶ力」へとつなげる手立てが必要と考えられる。</p> <p>◇札幌市共通指標から「自分で計画を立てて勉強する」ことや「自分の意見を進んで発言する」ことに課題が見られ、「自ら」学びに向かう姿勢を育む必要がある。</p> <p>◇学力検査の結果から、「基礎・基本が定着している児童の割合が低い」という実態が明らかとなった。児童一人一人が理解できる授業づくりとともに、繰り返し学習や個に応じた関わりなどの手立ても考えていく必要がある。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇全国学力・学習状況調査の児童質問において、「自分にはよいところがある」「先生はよいところを認めてくれている」「困りごとや不安をいつでも相談できる」の項目で肯定的な回答が全国平均を上回っていることから、昨年度の課題であった「一人一人が大切にされている」と実感できるよう、「子どもの声を聴く」ことを意識し「子どもたちの思いや願いに寄り添う」ことに関しては成果が表れていると感じる。また、札幌市の共通指標でも、「人の役に立ててうれしいと感じることがある」「学習で困っている友達に声を掛けたり一緒に考えたりするようにしている」「先生方は自分が安心して学習に取り組むことができるよう支援をしてくれる」等の自己有用感や自己存在感の項目において肯定的な回答が増加している。今後は、高まった「相互承認の感度」を基に、生きて働く「学ぶ力」へとつなげる取組の工夫が必要である。</p>	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力 「自ら」学びに向かい 生きて働く「学ぶ力」	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
<p>(1) 学びに向かう意欲を高め 持続させるための工夫 (全ての子どもに学ぶ楽しさを)</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習や学習経験の想起→「分かりそう」「できそう」という見通し 単元の目標へとつながる、子どもにとって面白い教材や活動の設定 子どもの本当の困りからつくる「めあて」 単元のゴールと流れを共有することでの「学び全体の見通し」 課題、学び方の選択 (学びを自己選択・調整できる場づくり) <p>(2) 自らの学びを進めていくための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働する必要性の創造…多様な答えが出る、話し合いとなる題材設定 子ども同士の考えとその関係の可視化 (構造的板書や ICT の活用) 子どもの考えを揺さぶり、話し合いの質を向上させる問い返し 	<p>① 学校生活を自分たちでよりよくしていくための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> なかよし活動、あいさつ週間、さっぽろっこ子サミットなどにおける子どもに委ねた創造的な取組の実施 (意思の実現・力を信じる) 児童アンケートによる生活の振り返り <p>② 行事や学習後の振り返りの継続</p> <ul style="list-style-type: none"> 感想カードの交流や振り返りの機会を設定 →自己の成長だけでなく、他者のよさや成長も感じられるように <p>③ 生きて働く経験となる学級活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互承認の感度を高める学級活動 →人権教室 (全学年)
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
<p>◇ 視覚的教材の活用によって、考えをもつ手助けや考えを深める手立てとする</p> <ul style="list-style-type: none"> 板書に子どもの考えを位置付ける→自分の考えを見返したり、新たな見方や考え方につなげたり… 自分の姿を客観的に捉えるための動画撮影→客観的に自分を振り返ることで、新たな課題が見つかったり、課題解決の足掛かりとしたり… 	

<本プログラムの実行に向けて>

